

学習状況調査から

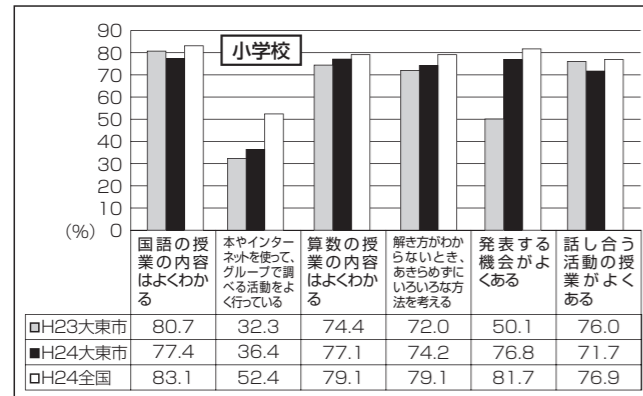
大東市教育委員会では、平成21年度から各学校において「授業改善」や「基礎学力の定着」「自学自習力の育成」に重点を置いて取り組んでいます。今後、さらに児童生徒の学力の向上をめざして、教員の指導力向上に努めます。

下のグラフは、平成21、22、24年度は「全国学力・学習状況調査」の数値を、平成23年度は「大阪府学力・学習調査」の数値を、もとに作成しています。

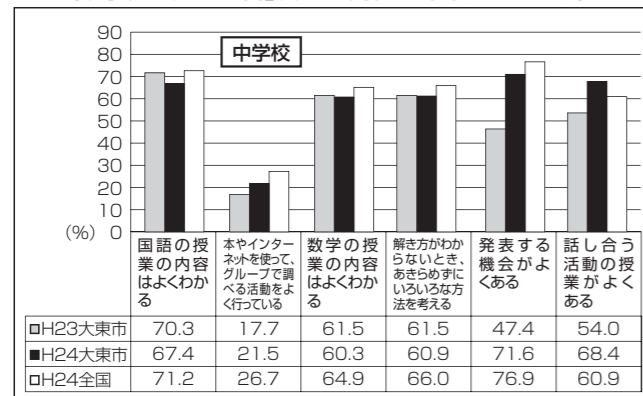
授業改善の成果

下のグラフは、小・中学校における「授業改善」関連のアンケートを昨年度と比較したものです。小学校では「算数の授業の内容はよく分かる」「解き方がわからないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える」が増えています。また、小・中学校ともに「本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている」「授業で自分の考えを発表する機会がよくある」が増えています。「国語の授業の内容はよく分かる」は減少しており、さらに授業改善が必要です。

〈小学校：「授業改善」関連質問紙の昨年度との比較〉



〈中学校：「授業改善」関連質問紙の昨年度との比較〉



だいたい教育改革アクションプラン

※アクションプランのうち、2つを紹介します

大東市の子どもの学力の向上には、日々の授業の充実が大事です。子どもたちにとって、「よく分かる」、魅力のある授業にするために、教員の授業力の向上をめざしてまいります。

アクション1：授業力アッププログラム

授業力の優れた教員の授業を「模範授業」とする研修を実施したり、各校が実施する研究授業を保護者等に公開し、授業力向上を図ります。

アクション2：学校力向上推進プロジェクトプログラム

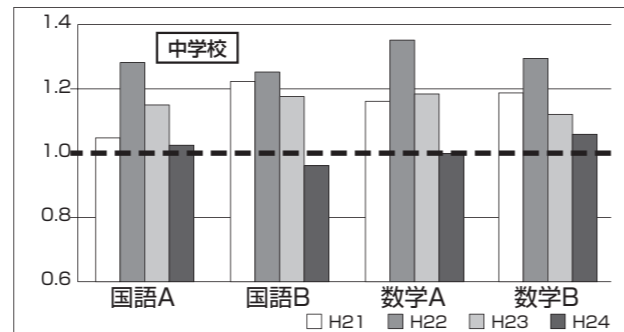
各校の課題に応じて多様な外部の支援人材を活用し、授業や放課後などの学習支援や教員の指導力向上支援を行います。



中学校では「話し合う活動の授業がよくある」が全国の前年比を越えました。また、下のグラフでわかるように無解答率が低くなってきており授業改善が進みつつあるといえます。

〈中学校：教科別の無解答率の経年比較〉

※大阪府を「1」とした場合の大東市の比較

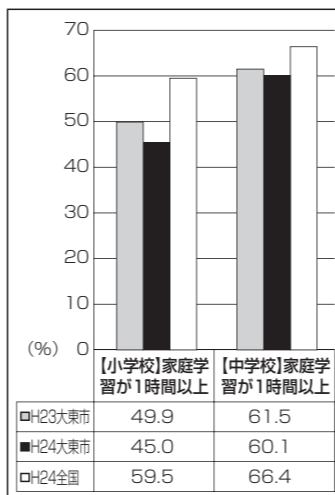


学力向上への「課題」

〈「学習時間が1時間以上」の昨年度との比較〉

右のグラフは、平日の授業以外での「学習時間が1時間以上」と答えた児童・生徒の割合を市の今年度・昨年度と全国を比較したものです。小・中学生ともに、昨年度よりも減少しています。

学力向上には、家庭学習の習慣化が不可欠です。ご家庭でも、お子様の学習への励ましをお願いいたします。



平成24年度

全国学力・学習状況調査 大東市の概要

平成24年度全国学力・学習状況調査が4月17日に実施され、大東市においても全市立学校の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施いたしました。

調査内容は、国語及び算数・数学の知識に関するA問題と活用に関するB問題、さらに理科の問題による「学力調査」、児童生徒に学校生活や家庭生活の様子を尋ねた「児童生徒質問紙」、各学校に取り組み状況や教職員の意識について尋ねた「学校質問紙」からなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童生徒の「学習意欲の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

問教育政策室 ☎870・9643

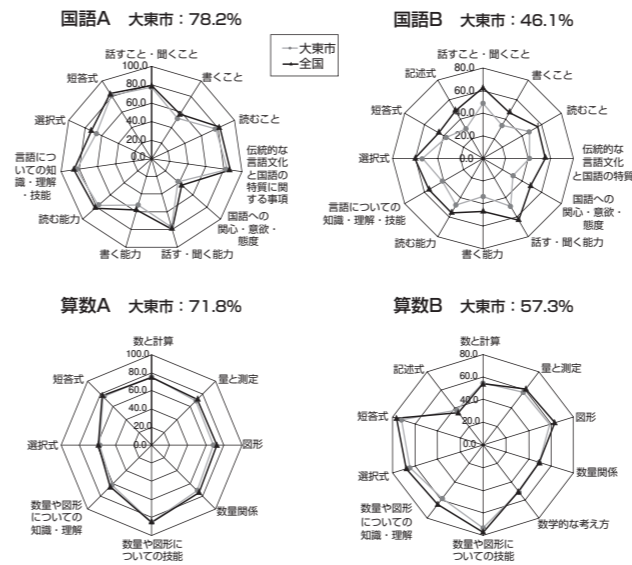
小学校 学力調査の結果より

国語については、「目的に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと」や「資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確に話すこと」など、記述する力に課題があります。

算数については、「数と計算」の領域がよくできており、B問題では正答率が全国を上回る設問もありました。図形や百分率の意味理解については課題があります。

理科については、「自然事象についての知識・理解」や「観察・実験の技能」など、基礎的な知識・理解に課題があります。

〈平均正答率〉



中学校 学力調査の結果より

国語については、「話すこと・聞くこと」の問題がよくできており、B問題では大阪府の正答率を上回りました。ただし、自分の考えを書くことには課題があります。

数学については、「数量関係」の問題や筋道を立てて証明したり、数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があります。

理科については、「電力量」や「浮力」など決まった数量を求める問題や「考察すること」が必要な問題の正答率が低く、「自然事象についての知識・理解」や「科学的な思考・表現」に課題があります。

〈平均正答率〉

